

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立坪生小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容

- 不登校生徒への丁寧な支援を引き続き継続してもらいたい。
- 学力向上に向けての様々な取組を継続し、学力を定着させてほしい。
- 交通安全や地域のボランティア活動など地域との連携を引き続き強化してほしい。

児童生徒の現状

- 「学校に行くのが楽しい」「安心して通っている」と感じている児童生徒の割合は91.0%(校区平均)であり、安心・安全で学校に楽しみを感じながら登校している。
- 「目標や方法を選びながら学んでいる」や「考えること、学びが面白い」と感じている児童生徒の割合は87.9%(校区平均)であり、選択・決定したり、対話をしたりしながら自ら学びを進めている。
- 前年度実施した標準学力調査においては、全体的に全国平均を下回っており、学力定着に課題がある。

育成する 資質・能力	○課題発見解決能力 ○チャレンジ精神 ○コミュニケーション能力(自己効力感) ○思いやりと感謝の心(地域貢献)
めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる
中学校区として 統一した取組等	○標準学力調査の結果分析を中心に授業改善に取り組み、学力の定着を図る ○小中で日本漢字能力検定に取り組み、基礎学力、家庭学習の定着を図る ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実

III 自校

学校教育目標

学び合い 学び続ける

現状

<児童>

- ・「学校が楽しい」肯定的回答 ⇒ 2024年度86% → 2025年度89.7%
- ・「相手を大切に言葉遣いをしている」肯定的回答⇒87.4%
- 言葉を大切にされた指導を日常的に行ったことで、学校全体で意識することができている。
- 各種学力調査において、平均を下回っている学年が多いことから、基礎学力の定着に課題がある。
- 様々な場面で、自分の思いをうまく言葉にして伝えることを苦手とする児童が多い。

<授業>

- ・「国語の授業はよく分かる」肯定的回答⇒86.4%
- ・「自分の考えをかくことは好きだ」肯定的回答⇒75.9%
- 「かくこと」に焦点化して授業改善に取り組んだことで、児童の「かく意欲」が高まり、「かくこと」への抵抗感が減ってきた。
- 各学期の学期末テストにおける「読む」観点の学級平均得点は、1学期と3学期を比べてみると、2.9点上がった。
- 説明文の読解や条件に従って書く力(伝えたいことを明確にして書くこと・文章構成や展開を考えて書くこと)に課題がある。

育成する 資質・能力	課題発見・解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神 (自己効力感)	思いやりの心・感謝の心 (地域貢献)
めざす こども像	5・6年 解決に向けて、主体的に選択・判断する	人の考えや気持ちを受け入れ、自分の意見や気持ちを表現する	結果の理由を次に生かしてやってみる	人や地域のためになることを考え、行動する
	3・4年 解決への方法を考え、見通しを立てる	人の気持ちを考え、自分の意見を理由をつけて伝える	得意なことも苦手なこともやってみる	人や地域のためになることを考える
	1・2年 もんだいにきづき、かだいをたてる	じぶんのかんがえやきもちをいう	もくひょうをもってやってみる	ひとやちいきにかんしゃのきもちをもつ

研究	テーマ 内容等	「かく力」を育む授業づくり ～自分の思いを豊かに表現する児童の育成～ ・文章を正確に読む力を高める指導 ・自分の思いや考えを他者に伝えるようにかく力を高めるための工夫
めざす授業の姿	児童の「かく力」を育む授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
1	基礎学力の定着	★	新規	「かく力」の向上	①交流しながら学力分析や教材研究を行い、手立てを工夫した授業を实践する。  ②帯タイムや家庭学習を計画的に実施する。	・教材研究や授業実践を学期に2回以上交流する。  ・説明的文章における「読む」観点の学級平均得点 80点以上  ・児童アンケート「自分の考えを伝えて伝えること(文章・図・絵など)にチャレンジしていますか」肯定的評価 80%以上  ・標準学力調査 40%未満の児童 10%未満  ・「家庭学習チェック週間」でやりきった人数 各学級 85%以上								
1	自己肯定感の向上と他者を尊重する心の育成		新規	互いを認め、自分と相手を大切にできる児童の育成	①あいさつを大切にしている指導を日常的に行う。  ②一人一人を大切に、より良い集団作りを行う。	・児童アンケート「相手の目を見て、大きな声であいさつをしている」肯定的評価 80%以上  ・児童アンケート「学校で自分の気持ちを安心して伝えることができる」肯定的評価 80%以上  ・教職員アンケート「ライフスキルを養うためのグループ活動を実施している」肯定的評価 80%以上								

1	健やかな心身の育成	★ 新規	自らの心と体の健康に興味をもち、よりよい生活習慣を身に付けようとする児童の育成	①毎月初、生活習慣を振り返る「メディアを減らしてわくわく3デイ」を行う。  ②参観授業やたよりで、保護者にメディア使用にかかる家庭のルールづくりを促す。	・児童ワークシート 「1日あたりのメディア使用時間が1時間以下の割合80%以上  ・児童ワークシート 「メディア使用が1時間以下になるように、工夫している」 肯定的評価80%以上  ・児童アンケート ・保護者アンケート 「メディア使用にかかるルールを作り、家族で守っている」 肯定的評価70%以上													
1	信頼され、地域とともにある学校づくりの推進	新規	地域や学校に親しみや誇りをもつ児童の育成	①学校行事や交流活動において、児童が主体的に関わる場面を設定し、「できた・分かった」という達成感を味わわせる。  ②生活科・総合的な学習の時間等において、地域人材を活用した学習活動を各学年で計画的に実施する。	・児童アンケート 「学校に行くのが楽しい」 肯定的評価85%以上  ・教職員アンケート 「地域と関わる授業を設定し、PDCA サイクルでカリキュラムを見直している」 肯定的評価80%以上													
			働き方改革の推進	①主体的な研修を計画・実行し、仲間と協働する時間を作る。	・教職員アンケート 「仕事にやりがいを感じている」 肯定的評価90%以上													

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。